

札幌保健医療大学

2025年度 一般選抜入学試験前期A日程

国 語

2025年2月4日(火)

1時限目 9:30～10:30

注 意

1. この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答時間は60分です。
3. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入してください。
4. 問題冊子は1頁～14頁、解答用紙は1枚です。
5. 解答はすべて解答用紙に記入してください。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(尚、問題作成上、本文の一部が変更されている)

ここにいう「対等」は「平等」とはちがう。二つのちがいを見えるなから、対等の関係のリンク^aをくつきりと浮かびあがらせたい。「平等」ということばは、人間はすべて平等である、といったふうに使われる。万人平等は近代法の基本原則で、日本国憲法も第十四条で「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地¹により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」と謳^{うた}っている。万人が平等だと言うとき、言う人は高みに立つて万人を上から見おろすようにして、みんな同じだ、といっている。なにが同じなのか。なにが平等なのか。A²的にはそう分かりやすいことではない。人間は一人一人が大体同じようなものだといわれれば、そうかと納得できなくはないが、他方、一人一人みんなちがうといわれると、それはそれで納得できる。万人が平等だというとき、なにをもって平等だというのか。

日本国憲法では「人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、……差別されない」ことをもって、平等の要件だとしている。人間のあいだには人種、信条その他のちがいがあるが、それにとらわれないのが「法の下に平等」だというのだ。人それぞれに備わる特殊な人種、信条、性別、……をすべて剥^はぎとる。あとには、ただの人間としかいえないような、たとえていえば一つの小さな透明の球のような、そんな存在が残るだろう。そんな抽象的な存在にまで人間を切りつめた上で、万人は平等だというのだ。高みに立つて人間を見おろす、といったのはそのことで、図式的に言えば、各人のちがいがまったく見えなくなる無限遠点まで昇りつめて、ただの点としてあるような人間をつかまえて万人が平等だという。それが平等の原風景なのだ。平等がイメージされるには、そこまでの抽象力が働かねばならないのであって、法の下に平等が近代法の基本原則だとすれば、それは、近代精神²がそれだけの抽象思考に耐えられるようになった証^{あかし}でもあるのだ。

「対等」は、そういうB³化の果てに立ちあらわれる観念ではない。人となり(人柄)に関心をもつ交わりのなかで自分と相手が「対等」だと感じるとき、その「対等」は人種・信条・性別や、出身地・出身校・職業・家柄・容姿・趣味を剥^はぎとった、点としての人間同士の平等とはまるでちがう。(1)人となり(人柄)に関心をもつ交わりは、抽象の極にむかつて歩みを進める関係ではなく、反対に、はじまりの段階では内容が不確定でキ^bハクだった人間像が、しだいに確定的で濃密な内容をもつてくるような関係だ。(2)差別的な内容を剥^はぎとつていく抽象化の極限に「平等」が立ちあらわれるのとはちがって、差別的な内容もそうでない内容もひっくるめて、自他の人となり(人柄)に関心を持ち、関心と理解を深めていくなかで、上下や優劣にこだわることが意味をなさなくなるような、そんな関係をさして「対等」な関係だというのだ。(3)人柄の内容がふくらむにつれて、ちがいいよいよ多方面に、多彩に意識されてくるのだが、そうやって浮かびあがる相

手の興味深い人間像と、それへの関心を基軸とするたがいの交わりは、支配と服従、指導と被指導、といった方向の定まった縦の関係をはるかに超える、多様で複雑な様相を呈している。(4)そして、その根底には、あちらからこちらへ、こちらからあちらへと関係の糸が縦横に張りめぐらされていて、上下や優劣に縛られない関係の豊饒さ^{ほうじょう}を思えば、そこに、どちらが上ともどちらが下ともいえないような、対等性らしきものになりたつているとでもいうしかないのだ。(5)「平等」が、差別や上下関係や優劣の関係を排するところになりたつとすれば、「対等」は、差別や上下関係や優劣の関係があちこちで部分的になりたつことを認めつつ、それらを大きく包みこんで、総体としては相手が自分にふさわしく、自分が相手にふさわしいと思えるような交わりがなりたつて³いる。そんな関係を目して、たがいに「対等」だといふのである。

高校生のわたしが西洋近代小説を夢中になつて読んでいたとき、わたしはそういう対等な関係のなりたちをさまざまな場面で目撃していたのだ。ジュリアンとレナール夫人、ジュリアンとマチルドは、その出身からして平民と貴族という階級差別を背負っている。(6)そして、階級社会が存続するかぎり、その差別が制度としても意識としても完全に消え去ることはありえないが、男と女、人間と人間の関係が深まるにつれて、たがいが差別を踏みこえていこうとするようになる。二組の恋愛は、社会的身分差別に安住するのではなく、差別を超えていこうとするからこそ、人間性ゆたかな恋愛となりえて⁴いるのだ。

が、人間性ゆたかな二組の恋愛は、いずれも破綻する。そして破綻には、身分のちがう男女のあいだでの、対等の関係のなりたちにくさが反映している。『赤と黒』の舞台となる十九世紀フランスの社会は、対等な関係の自然な開花をゆるすほど階級性・差別性を脱却してはいなかったともいえるし、どんなに自由と自立と平等を尊重する社会でも、対等な関係を形成し維持し発展させるのは個人にとつて容易なことではないともいえる。ことは恋愛の関係に限らない。わたしたちのまわりを見わたしても⁴二十一世紀の日本の社会にあつて、対等な関係を形成し維持し発展させるのはけつして容易でないのが分かるはずだ。

容易でない理由として、おもに二つのことが考えられる。

一つには、自由・自立・平等の尊重を建前とする近代社会にあつても、人間関係のなかに陰に差別の要素が入り込み、対等な関係の成立を妨げるといふことだ。リジュン^d追求を目標とする企業では、学歴や、資格の有無や、能力差や、男女差や、人づきあいのコウセツ^dなどがすぐにも差別をうみだしかねないし、勝ち負けにこだわるスポーツ集団では、体力のちがいや技術のちがいが差別の原因となりかねない。一対一の関係でも一対多の関係でも、差別を克服して対等な交わりへと至るのは容易なことではない。対等な関係をめざすよりも、差別を受けいれ、自分の地位や分限に応じたふるまいに出るほうが集団がうまくおさまり、自分も居心地がいい、ということも少なくない。

対等な関係がなりたちにくいもう一つの理由として、相手の人柄に関心をいざくこと、関心をいざくつづけることがけつして容易ではないことがあげられる。

対等な関係の核心は相手の人柄（人となり）に興味をもつことだとこれまでくりかえし述べてきたが、相手の人柄に関心をもちことは、いうほど簡単ではないのだ。ふと知り合つただれかにたいして、友だちになりたい、つきあいたい、好きになりたい、好かれたい、などといった気持ちが沸くとき、それは、まちがひなく相手の人柄に関心をもちた状態だといえるが、初対面で、あるいは前後数回の顔合わせでそんな気持ちの沸く相手はごく限られている。それとなく会つて、それとなく別れるような日々のさりげないつきあいのなかでは、わたしたちの意識は相手の人柄に関心をもちようにはなかなか働かない。

それが、制度上あるいは職務上、つきあひが持続的なものになると、意識のありかたに変化が生じる。他人の存在に無関心ではいられなくなる。他人の存在やふるまいかたを意識しつづつ関係を作つていかざるをえなくなる。

が、そこに生じる他人への関心を、すぐにも相手の人格への関心だということはできない。つきあひの持続が制度や職務によつて保証されている以上、自分の存在やふるまいが制度や職務に縛られているのに見合つて、他人への関心も制度や職務に縛られた、他律的なものにならざるをえないからだ。集団の和や、上意下達の指令系統や、仕事の効率などが、人柄への関心をはじきとばすようにして、なかば強制的に人と人をつないでいくことも珍しくない。つきあひの持続が C ことも少なくない。貧しい関係のなかでは、行き交ふことばも、ただ必要を満たすだけの、あるいは、ことさらに上下関係を自他に確認するような、冷たくわざとらしいものになる。

そんな関係が集団を支配するなかで、個と個がたがひに相手の人柄に関心をもちような関係を作りだし、維持していくことは容易なことではない。対等な関係を作りあげるには、多かれ少なかれ、集団の強要する関係に抗うようにして相手と向き合ねばならないが、たがひの人柄に関心をもちような対等な関係は、もともとなにかに抗つて作られるものではない。もつと自然にたがひが精神的に近づいていくような関係だ。やむをえず抗ひの姿勢をとらざるをえないとしても、対等な関係のなかで、その姿勢は薄らいでいかなければならない。真に対等な関係が生まれるには、抗ひの姿勢はもみほぐされねばならない。

（長谷川宏『高校生のための哲学入門』による）

問一 傍線部 a、d のカタカナ部を漢字にしたとき、次の①～⑤の傍線部と同じ漢字を用いるものを、それぞれ一つ選び記号で答えなさい。

a
リンカク

- ① 北海道でチカク変動が起きた。
 - ② そびえ立つロウカクを見上げた。
 - ③ 文章のコツカクを組み立てた。
 - ④ 古いジョウカク都市を見学した。
 - ⑤ 環境問題のカクシンをついた質問をした。
- b
キハク

- ① 偶然が重なって起きたキショウなケースだ。
- ② 彼は何事にもキチョウメンな性格だ。
- ③ 名誉キソンで訴えられた。
- ④ 彼はいつもキベンを使う。
- ⑤ 災害でキガ状態になった。

c
リジュン

- ① 温泉水をジュンカンさせている。
- ② 大量の資金をジュンタクに使う。
- ③ 大勢で議論しジュントウな結論がでた。
- ④ ライフルのショウジュンを合わせて発射した。
- ⑤ 学校内をジュンシする。

d
コウセツ

- ① セツドを守って行動する。
- ② 人生で初めてザセツを味わう。
- ③ コンセツ丁寧に説明する。
- ④ チセツな言い訳をする。
- ⑤ 美術館にジョウセツ展示があった。

問二 傍線部1「門地」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 住居 ② 職歴 ③ 家柄 ④ 学歴 ⑤ 出身地 ⑥ 居住地

問三 空欄A、Bに入る最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 具体 ② 画一 ③ 感情 ④ 論理 ⑤ 図式 ⑥ 抽象 ⑦ 感覚 ⑧ 社会 ⑨ 立体 ⑩ 合理

問四 傍線部2「それだけの抽象思考」とはどのようなことか、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 各人の違いを認めた上で人間の存在を極限まで追求し、感覚的に平等をとらえること。
② 平等の原風景に立ち戻って、人間の存在を平等という観点からだけで考えようとする事。
③ 人に備わっている人種、信条、性別などを剥ぎとって、人間を透明な球のように考えること。
④ 各人の違いが見えなくなる無限遠点まで昇りつめることによって、人間の存在から象徴的な部分が全くなくなるように考えること。

- ⑤ 高みに立つて万人を見おろすことによって得られる非常に広い視野によって、ものごとをとらえることができること。

問五 傍線部3「そんな関係を目して、たがいに「対等」だというのである」とあるが、「そんな関係」とはどのような関係のことか、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 異なる人種・信条・性別・社会的身分などに影響されずに、差別や上下関係・優劣関係にも縛られないで、お互いの人間性だけを純粋に追求し合うなかで築かれる、「平等」という概念すら超えた人間性ゆたかな関係。

- ② 差別や上下関係・優劣関係は背景に部分的に残しつつも、異なる人種・信条・性別・社会的身分などによる違いを徹底的に排除して人間性だけに注目し、お互いの理解を深めることで成り立つ、人格を尊重し合う関係。

- ③ 相手に対しての関心や理解を深めることによって、上下関係や優劣関係にこだわるのが無意味となり、互いに相手を認め合い、人間がもともと持っている差別の意識が消えた憎しみや争いごとのない平和で安定した関係。

- ④ 異なる人種・信条・性別・社会的な身分などを含んだ個々の人柄に、関心を抱き合い理解を深めることで、互いの間に立ちほだかる差別や上下関係・優劣関係などを超越して築かれるような関係。

- ⑤ 差別や上下関係・優劣関係について関心を持ち続け理解を深めることで、人種・信条・性別・社会的身分などの違いが人間同士の関係に影響することがなくなり、お互いがふさわしい相手だと思えるような関係。

問六 傍線部4「二十一世紀の日本の社会にあつて、対等な関係を形成し維持し発展させるのはけつして容易でない」とあるが、「容易ではない」と筆者が考える理由として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 現代の日本社会においては、すでに階級性・差別性を脱却しており、自由と自立と平等を尊重する社会は構築されているが、個人のレベルでは階級性や差別性が残っており、学歴・能力・男女などの差別が生じているから。

② 十九世紀のフランスにおいて差別を超えて築かれた恋愛関係でさえ対等な関係を維持できなかったため、現代においても和を重んじる日本社会では、個人が互いの人柄に関心を持つことは困難であるから。

③ 現代の日本社会では、学歴や能力差などの差別の要素が人間関係に入り込んでしまいがちである上、人柄に興味がわく相手との出会いは限られており、集団に強要された関係では相手の人柄への関心は抱きにくいものだから。

④ 現代の日本社会においても、十九世紀のフランスと同じく自由と自立と平等の尊重は建前ではないので、階級的な差別を克服することが難しい上に差別を超えて個と個が相手の人柄に関心を持つことは簡単ではないから。

⑤ 現代の日本社会では、人間関係において階級性や差別性から脱却することは到底できないので、社会的身分差別を受け入れ自分の地位や身分にあった関係のほうが、対等な関係を形成するよりうまくいくから。

問七 傍線部5「その姿勢は薄らいでいかねばならない」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 対等な関係は、集団の強要する、制度上あるいは職務上の関係に抗うことで作られるから。

② 対等な関係によつて、個と個が互いに関心をもつ社会を作り上げるためには、相手の人柄を信頼することが必要であるから。

③ 対等であるにはまず平等でなければならないので、集団の強要する関係には抗う必要があり、上下関係を自他で確認することが重要であるから。

④ 制度や職務に縛られながら、上下関係が支配する集団に抗つて相手と向き合うのは困難だから。

⑤ 対等な関係は、様々な関係を包み込んで生まれるもので、何かに対抗して作られるものではないから。

問八 空欄 C に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 人間関係をゆたかにするどころか、かえって貧しくする
- ② 人間関係をゆたかにし、それゆえ他人への関心も自律的になる
- ③ 人柄への関心を喚起し、むしろ人間関係をゆたかにする
- ④ 他人への関心を失わせる上に、上下関係を乱してしまう
- ⑤ 人間関係をより難しいものとし、破壊状態に陥らせる

問九 次の文章は本文の(1)～(6)のどここの後に入るのが最も適当か、記号で答えなさい。
ちがいがなくなるのではない。

問十 本文において筆者はどのようなことを述べているか、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 「平等」と同じく「対等」という観念も近代の幻想に過ぎない。
- ② 「平等」ではない階級社会でも「対等」な関係は成り立つ。
- ③ 「対等」な関係の形成のため、「平等」であることが最重要だ。
- ④ 差別がなくなるとかえって「対等」な関係は成り立ちにくい。
- ⑤ 階級社会の中にも「平等」は存在しており、そこから「対等」な関係が生まれる。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(尚、問題作成上、本文の一部が変更されている)

極端な例ではあるが、学校の廊下を走っている生徒に教師が注意をすると、「いけない理由は何ですか、こんなに広くて気持ちのよい場所なのに」と、まったくもって率直な反応が返ってくるのが近年は増えているという(『毎日新聞』朝刊、二〇〇〇年五月一三日)。たとえば「どうしようもない緊急の用事があったから」などと、かつての生徒たちのように一応もつともらしい理由をかりそめにでも考えて釈明¹しなければならぬとは端^{はな}から感じていないようである。それは、自分の行動に言葉で根拠を与えることに對して、かつてほどの信頼を置いていないからだろう。言葉で表現することは、自分の純粋な気持ちに對して、あたかも偽りの行為であるかのように感じてしまうからだろう。

このように、現代の若者たちは、自らのふるまいや態度に對して、言葉で根拠を与えることにさしたる意義を見出しにくくなっている。言葉以前の内発的な衝動や生理的な感覚こそが純粋な自分の根源であると感じ、言葉によって作り上げられた観念や信念に根ざすものとは考えにくくなっている。自らの身体的な感覚を重視し、心や感情の動きといったものも、それと同様のものとして捉える傾向を強めている。

リストカットを繰り返す少女たちが、言葉ではなく身体によって自らの生きづらさを表現しようとするのも、おそらく言葉に對してかつてほど信頼を置いていないからだろう。言葉によって表現されたものは、それがどれほどキョウレツ^aな内容だったとしても、別の言葉によって相対化されてしまう危険をつねに孕^{はら}んでいる。しかし、言葉によって意味づけられる以前から存在する身体感覚は、そうした相対化の危険にさらされることがない。自らの身体感覚によって生きづらさに具体的な形を与え、また身体の傷によってその生きづらさを表現しようと試みるのは、言葉では語りえない絶対的なもののなかにこそ、純粋な真実が宿っていると彼女たちが感じているからだろう。

こうしてみると、第一章で触れた「むかつく」という表現も、じつは彼らの判断基準³の身体感覚化を物語っていたことに気づく。たとえば、胃に「むかつき」を覚えるのは生理的な現象であつて、社会的あるいは心理的な現象ではない。自分の意思でもコントロールできないような、内部からふつふつと湧^わき上がってくる抑えがたい感覚である。

したがって、ある状況に對する不快感や、ある人物に對する嫌悪感を表わすために、近年の若者たちが「むかつく」を多用する⁴という事実は、そうした社会的に不快な感情を、身体的な感覚と同じものとして感じる傾向を強めていることの表われともいえる。だから、他人から悪口を言われて「むかつく」と同時に、テストの点が悪くても「むかつく」し、恋人にふられても「むかついて」泣くことになる。心の動揺の根拠がまったく異なるはずの感情を「むかつく」の一言で表現しうるのは、彼らの最大の関心事が、心の動揺の理由ではなく、動揺している身体的感覚そのものにあるからだろう。

このように考えると、不都合な状態や危険を示す「やばい」という表現や、恐怖の強さや気味の悪さを示す「鳥肌が立つ」といった表現が、今日の若者たちのあいだでは、それとは正反対の称賛や感動を表わす言葉としても使われる傾向にある理由がよく分かる。⁵「この料理、やばいよね、鳥肌が立ったよ」といった表現が、非難の文脈ばかりでなく、最高のほめ言葉としても成立しているのは、自分の気持ちが大いに高ぶったという点で、どちらも同じような身体感覚をともなっているからだろう。彼らがそこで表明したいのは、心を大きく動かされた根拠の具体的な中身ではなく、その身体感覚の高まりであり、その強度なのである。

近年のこのようなメンタリティの変化は、社会学者のR・ベラーの言葉を借りて、「善いこと」(being good)から「感じる」(feeling good)への評価基準の変転といってもよい(島蘭進・中村圭志訳『心の習慣』みすず書房、一九九一年)。自分の感情や行為が妥当なものであるか否かは、もちろん一〇〇パーセントとはいわないまでも、かつては社会的な基準に照らして決まる度合がそれなりに高かった。しかし、いまや自分の生理的な感覚や内発的な衝動に照らして決まる度合のほうがはるかに高まっている。本人の感じ方への配慮が行き届かず、善悪の基準を外部から押し付けるようなものの言い方に対して、昨今の若者たちが「上から目線」でものを言うな」と強い嫌悪感を示すのもそのためではないだろうか。

「善いこと」の根拠は自分の内部にあるわけではなく、社会的に存在するものである。だから、社会と自己のあいだに葛藤も生じうるし、その葛藤をめぐって、反社会的な物語や非社会的な物語も成立してきた。しかし、「いい感じ」の基準は自分そのものである。結局は同義反復にすぎないから、葛藤の生まれる契機はそこにある。こうして、物語も脱社会的なものとなる。⁷ベラーが説くように、「行為はそれ自身では正しいとも間違っているともいえない。(1)ただ、行為のもたらした結果が、また行為が引き出したあるいは表出した「いい感じ」が行為の善し悪しを決める」のである。

最近の若者たちが、身近な人びとに対して過剰な優しさや過敏な配慮を示すのは、政治社会学者の栗原彬が「自分に回帰していく(やさしさ)」と形容するように、それが自らのA⁸そのものに関わるものだからである(『増補・新版やさしさの存在証明』新曜社、一九九七年)。だから彼らは、人間関係のマネージメントに互いの神経をすり減らし、その関係に少しでも傷がつくと、たちまち大変なパニックにおちいつてしまいがち。その関係の傷は、自らの存在基盤を脅かすような重大事だと感じられるのである。

思想や信条といった言語的な観念を通さずに、内発的な衝動や生理的な感覚のみに依拠した純粋な自分は、自分のふるまいと自分自身とのあいだにクッションを有していない。(2)だから、相手とのあいだに生じたアツレキ⁹は、たとえそれが些細なものだとしても、あたかも自分という存在が全否定されたかのように受けとられやすい。純粋な自分であろうとすればするほど、他人との葛藤は自分の本質を脅かしや

すいものとなる。(3)そのため、他人との葛藤に対して、かつて以上に敏感な関係を営まなければならなくなっている。

このような状況下での人間関係の^{ほんとう}綻びは、彼らの自己肯定感を奥深くまでヨウシヤ^cなく傷つける。たとえば、学校での自分は生徒の役割を演じているだけだと思っていれば、仮に教師から叱られたとしても、それは生徒としての自分が否定されたにすぎず、自分の全人格が否定されたわけではないと思える。だから、さほど傷つかないでもすむし、いったん学校を出てしまえば、すぐに平常心に戻ることもできる。しかし、学校での自分も自らの本質をストレートに表わしたものだという思いが強ければ強いほど、もしそこに非難が加えられると、それは自分の全人格が否定されたかのような感覚におちいってしまう。(4)だから、昨今の生徒たちは、教師からの何気ない一言にも大いに傷つきやすくなっているし、逆に反発を感じやすくなっているのである。高校教師の喜入^d克がシテキ^dするように、「先生は神様ではないのに、どうして私という一人の人間を評価できるのですか」といった不満を示す若者が増えているのもそのためだろう(『高校がホウカイする』草思社一九九九年)。

同じことは、当然ながら友だち関係にも当てはまる。むしろ教師よりも親密感が強い分、そこから受けるショックも大きいといえる。しかし、だからといって彼らは、そのような関係から離脱することも、けっして好まない。(5)むしろ、そうした人間関係が破綻してしまわないように、さらに繊細に配慮しあつて葛藤の要素を徹底的に抑圧し、ガラス細工のように緊迫した関係を営んでいかざるをえない。(6)純度一〇〇パーセントの自分を支えるためには、まことに逆説的ながら、周囲の人間からの絶えざるサポートが必要不可欠なのである。

(土井隆義『友だち地獄——「空気を読む」世代のサバイバル』による)

問一 傍線部 a～e のカタカナ部を漢字にしたとき、次の①～⑤の傍線部と同じ漢字を用いるものを、それぞれ一つ選び記号で答えなさい。

a キョウレツ

① レツアくな環境の中でもよく努力している。

② 外国との交渉がケツレツした。

③ 彼はその本をツウレツに批判した。

④ 各国首脳がレツセキしている。

⑤ 彼は支離メツレツなことを口走った。

b アツレキ

① 車道に飛び出し、トラックにぶつかってレキシした。

② 現在では太陽レキを用いている。

③ 大地震で街はガレキの山となった。

④ その報道は青天のヘキレキであった。

⑤ 高校では日本のレキシを学習する。

c ヨウシャ

① ガーゼをシャフツ消毒した。

② 台風により交通がシャダンされた。

③ 病院で治療のため、チュウシャを打った。

④ 刑の執行がオンシャによって免除された。

⑤ 現代人は情報をシュシャ選択する能力が求められている。

d シテキ

① 栄養補給のためテンテキ注射をした。

② 彼は部長にテキニンだ。

③ 手術で悪性腫瘍をテキシュツした。

④ 彼にヒツテキする者は誰もいない。

⑤ 彼の予言はテキチュウした。

e
ホウカイ

- ① アルバイトのホウシュウが支払われた。
- ② 江戸時代はホウケン社会であった。
- ③ 寝室でホウコウ剤を使っている。
- ④ 中学時代のホウユウを大切にしている。
- ⑤ 近くでトンネルのホウラク事故が起きた。

問二 傍線部1「釈明」の言い換えとして、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 注釈 ② 解釈 ③ 弁解 ④ 釈然 ⑤ 弁済

問三 傍線部2「それ」は何を指しているか、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 純粋な自分の根源 ② 言葉によって作り上げられた観念や信念に根ざすもの
- ③ 言葉で根拠を与えること ④ 自らの身体的な感覚 ⑤ 自らのふるまいや態度

問四 傍線部3「判断基準の身体感覚化」とあるが、その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 内発的な衝動や生理的感覚を自分の根源だと感じるようになること。
- ② 自己の内部から湧き上がる抑えがたい感覚を言葉によって意味付けようとする。
- ③ 自らのふるまいや態度を具体的な形とするために言葉による表現を用いること。
- ④ 言葉にかつてほど信頼を置いていないため、身振りや表情などによる身体的表現を大切にすること。
- ⑤ 言葉による相対化を嫌って、心や感情の動きを何よりも重視すること。

問五 傍線部4「近年の若者たちが「むかつく」を多用する」とあるが、その理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 自分の身体的な感覚や感情の動きといったものは、言葉によって表現することが難しいから。
- ② 自分の身体的な感覚を重視し、心の動揺の根拠が異なる感情でも、「むかつく」の一言で表現するから。
- ③ 不快感や嫌悪感は生理的な現象であって、自分の意思によってコントロールできないから。
- ④ 社会生活の中で生じる不快な感情は心の動揺の質が全く異なるものであっても、同一の言語表現を用いる傾向があるから。
- ⑤ 若者たちは全ての感情を身体的感覚と同じものとして感じる傾向があるため、内部から湧き上がってくる様々な言葉を抑え込んでいるから。

問六 傍線部5「それ」とはどのようなことを指しているか、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 動揺している身体的感覚 ② 不都合な状態や恐怖の強さ ③ 身体的な感覚と同じものとして感じる傾向
- ④ 社会的に不快な感情である他人からの悪口 ⑤ テストの点数が悪いことや恋人にふられること

問七 傍線部6「この料理、やばいよね、鳥肌が立ったよ」について、この言葉が最高の褒め言葉としても成立する理由として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 称賛や感動を表す言葉は、言葉にすることで相対化されてしまうという危機感があるから。
- ② 「やばい」や「鳥肌が立つ」という言葉を用いると、自分の生理的な現象としてどのような対象にも通用するから。
- ③ 危険を表す言葉、恐怖の強さや気味の悪さを表す言葉はいずれも身体的な感覚ではなく、感情に由来するものであるから。
- ④ 心を大きく動かされた事柄の具体的な中身は自分の気持ちが高ぶったということであり、「やばい」や「鳥肌が立つ」という表現が心の動揺を的確に表しているから。
- ⑤ 心が動かされた根拠ではなく「やばい」や「鳥肌が立つ」という身体的感覚を評価の基準としているから。

問八 傍線部7「物語も脱社会的なものとなる」とあるが、その理由として、最も適當なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 本人への配慮が行き届かず、善悪の基準を外部から押し付けることによって生まれる物語は社会とは全く無関係であるため、何の問題も引き起こすことがないから。

② 自分の感情や行為が妥当であるかどうかは社会的な基準に照らして決まるものであるので、そのことから生じる物語以外は本来の物語とは言えないから。

③ 善悪の判断基準が自分の外にはないため、自分そのものが行為や感じ方の判断基準とする場合は社会とかかわらずに済み、社会的物語の契機となる葛藤も生じないから。

④ 若者たちが「善いこと」の評価基準を社会的な基準に照らして決めることになったため、反社会的な物語や非社会的な物語は完全になくなってしまったから。

⑤ 若者の行為はそれ自体では正しいとも間違っているとも言えないので、行為のもたらした結果が「いい感じ」の物語を紡ぎ出した場合のみ社会的なものとして認められることになるから。

問九 空欄Aに入る最も適當なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

① 自己防衛 ② 存在根拠 ③ 精神安定 ④ 誠実さと良心 ⑤ 信頼関係 ⑥ 自己満足

問十 次の文章は本文の(1)～(6)のどの後に入るのが最も適當か、記号で答えなさい。

なぜなら、その関係こそが、彼らの脆弱な自己肯定感を支える唯一の源泉となつていからである。

